経営一転語 121　不況期に持つべき経営マインドと行動パターン（１）

今回から、何回かに分けて、「不況期に持つべき経営マインドと行動パターン」というテーマで解説していきたいと思います。

初回は「社長が思ったとおりの会社になっている」ということについてです。

まず、前提として、スタート地点に立つために、「社長が思ったとおりの会社になっている。」ということを受け入れられるかどうかという関門があります。

つまり、「今の会社の現実は、全て責任は自分にある。」と思えるかどうか、言い換えれば「今の会社の現実は、自分が思ったとおりの会社になっている。」と思えるかどうかが、今後、その会社が進歩していくか、後退していくかの分岐点になります。

これを、受け入れられないと、何事も前に進みません。現在、会社の業績が悪いのは、不況のせいだ、政治が悪いからだ、従業員がなっていないからだ、いろんな言い訳ができます。自分以外の責任にすれば、気が楽になるからです。

しかし、そんな言い訳や他者に責任を転嫁していても、会社の業績はいっこうに良くなりません。

不況でも伸びている会社があります。政治が悪くても自分で努力できることはないでしょうか。従業員がなっていないならば、社長や管理職が、教育をすればよいのです。

私が「会社は、社長次第で決まる。」と常々申し上げている原点はここにあります。（つづく）